



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

「介護の日」以降のさらなる取り組みを具体化し市民に介護改善の賛同を呼びかけよう！

介護保険アンケートで「利用できない介護保険」に疑問の声（港医療生協）

「2兆円のばら撒きやめて介護保障や医療保障にあてるべきだ」

機関紙“お元気ですか”に折り込んだ65歳以上の方を対象に約2,600通発行した「介護保険アンケート」が山のように帰ってきています。機関紙配布直後は50通以上の返信があり、現在は260通以上のアンケートが届き、整理しています。コメントしていただいた方一つ一つのコメントをチェック。アンケートの量からも介護保険制度への関心の高さが伺えます。アンケートの中には項目以外にも「2兆円のばら撒きやめて介護保障や医療保障にあてるべきだ」などのご意見や「利用できない介護保険」に疑問を挙げられる方もいます。またアンケートでは「声」を届けられないとして直接事務所に電話をかけてこられる方もおられました。地域の声をこれからも集め続け、介護保険に対する国の負担を大幅に増やし、保険料や利用料を引き下げ、介護労働者の処遇改善をはかり、介護の人材を確保することを求めていきます。



法人・事業所で介護宣伝・署名活動がおこなわれています



毎週土曜日に集約をおこなっている「介護ウェーブ推進集約表」には法人・事業所で盛んにおこなわれている介護ウェーブの署名宣伝行動・学習会などの取り組みが報告されています。かわち野医療生協ではそれぞれの地域で行われている「健康まつり」で署名・宣伝・財政活動をおこない、署名112筆とカンパが集まりました。港医療生協では介護ウェーブ署名とチラシをセットし返信用封筒付きで500世帯に配布しました。他の法人・事業所でも下記のように取り組まれています。

○ 医療法人共愛会

のぼりが届き、病院とデイあいあいに立てて宣伝。月・火・木・金の 13:30 ～後期高齢者問題と併せて宣伝。11/23 の「友の会会員拡大行動」時に介護署名もいただきました。

○ 福島医療生協

11/25 の 17:30 ～阪神野田駅前で 12 名の職員が参加し介護ウェーブ宣伝をおこない、23 筆の署名が集まりました。

○ 西成医療生協

11/25 に定例の介護ウェーブ「フクシ」宣伝で 13 名の職員が参加し、リレートークと署名宣伝行動をおこない 27 筆の署名があつまりました。次回は 12/24 クリスマスイブ宣伝です。

○ 医療法人同仁会

11/20 に定例の介護宣伝を青年職員中心に約 20 名が集まり、青年職員のリレートークと署名宣伝活動をおこない 63 筆の署名が集まりました。次回は 12/18 凤ウィングス前で宣伝です。

(大阪民医連 介護ウェーブ推進ニュース No.31 2008.12.02 より)

介護1000事例より利用料が高くて介護サービスが受けられないケースなど取材を受ける(医療法人同仁会)

全日本が発表した「介護1000事例調査」を受けて、11月26～28日までしんぶん赤旗が同仁会に取材に入りました。利用料が高くて必要性があるにもかかわらず介護サービスの利用ができないケース、施設入所が必要なのに高額な入所費用のためぎりぎりで在宅生活を送っているケースなどを取材したい、との事前の依頼に応え、各事業所が利用者さんにお願いし協力をしていただきました。

要介護5のAさんを永年1人で介護しているご主人はヘルパーの訪問の間だけ横になって休むことができます。また、要支援1で家の必要な買い物を時間をかけてしたいというBさんのニーズは、前のヘルパー事業所から採算が合わないと断られてしまいました。老老介護で介護者である妻が倒れた途端生活が維持できなくなりかけた87歳のCさんご夫妻は、介護保険では認められないからと自費のヘルパーサービスも利用されています。

ヘルパー管理者、老健の介護福祉士、耳原総合病院のSWへのインタビューも行ないました。また、そのような中で大阪では訪問介護Q&Aを行政に改めさせた、という運動の成果も取材していただきました。

介護報酬改善へ大阪社保協が学習決起集会 約100名が参加!

勝田登志子さんの熱い講義にケアマネが「私ももっと頑張らんとあかんねー」



11月29日（土）大阪社保協と「よりよい介護をめざすケアマネジャーの会」主催で「介護報酬はどうなる！わたしたちはどうする!!ケアマネ・ヘルパー学習決起集会」が開催され、約100名が参加しました。社団法人「認知症の人と家族の会副代表」で介護給付費分科会委員でもある講師の勝田登志子さんは介護給付費分科会の「最新情報」や認知症の人と家族の会の取り組み、認知症があっても安心して暮らせる社会へという内容で講演をしていただきました。

講演のあと、介護報酬の引き続く改悪や介護制限の中でも頑張っている様子がケアマネジャーとヘルパーから発言されました。ケアマネジャーの代表発言は豊中医療生協の若松八重子さんでした。

最後に大阪社保協介護保険対策委員の日下部雅喜氏が「最後まで現場の声を厚生労働省・介護給付費分科会に届けよう」と6つの要望事項を含む行動提起を報告しました。大阪社保協では12月9日に独自に厚生労働省交渉を行います。

（大阪民医連 介護ウェーブ推進ニュース No.32 2008.12.03 より）

「私たちの施設も大変です。この訴えはとても共感します」の声

10月24日（金）西成医療生協の「福祉の日」宣伝行動を玉出商店街でおこないました。ケアマネや介護職員のリレートークでは、介護の仕事に誇りを持って働く一方、介護保険制度の壁にさえぎられ利用者本位の介護を提供できない苦悩を語りました。また、下がり続ける介護報酬の影響で、低賃金・重労働の介護職員は人手不足となり、介護を受けたくても、事業所が受け入れられない状況が生まれている、介護の社会化を実現するためにも、1筆でも多くの署名をお願いしますと訴えました。

ホームレスの自立支援施設で働く方が「私たちの施設も本当に大変です。同じような状況なので、この訴えはとても共感します。がんばってください。」と声を掛けてくださいました。また、宇治もりとくの社長さん（9条茶を作成してくれたメーカー）が通りかかり署名をしてくださいました。「がんばってや、応援してるで」その一言一言に共感の輪が広がっていることを実感しました。この日は、11名の職員が参加、21筆の署名が集まりました。

（大阪民医連 介護ウェーブ推進ニュース No.29 2008.11.25 より）

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp